

つきたい力

伝えたい事柄を明確に書く力

取組みの概要・ポイント

自分に必要な情報を収集し、内容を整理し、表現する活動を通して、書く力の育成に取り組んだ。

具体的な取組みの内容

1. 授業づくりの工夫

① 情報を整理するための手立て

- 文章の構造と内容を把握するために、二瓶弘行さんが提唱している「説明文の家」を活用
- 比較した情報を整理するために、思考ツール(「ベン図」や「表」)を活用
- 児童が自分に合った整理の仕方を選ぶ(個別最適な学び)

② 整理した情報を活用して、明確に書くための工夫

- 自分の立場を明らかにして、根拠となる理由を、整理した情報の中から選び出す
- 何を取り入れ、何を省くのかを考えることができるように字数制限用紙を活用する
- 対話を通して、考えを広げ、自分の考えをもつことができるようにする(協働的な学び)

説明文の家



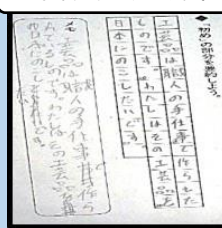
表



ベン図



字数制限用紙



対話→考えの形成



2. 言葉の力を高めるために

- 朝読書、朝学習(語彙・文法・漢字・読み取り・書く力をつけるためのプリント学習)
- にっこ二小「ことばのたからばこ」(※光村図書 国語の教科書をもとに作成)
(人物や出来事について説明したり、自分の考えや感想を書いたり、伝えたりするときに活用)
- 校内作文放送(作文の発表、同学年や異学年の作文を聞く機会)

ことばのたからばこ



学校公開の指導案は
こちらです。



取組み報告資料は
こちらです。

取組みを通しての子どもの変容

泉佐野市で実施している「市内統一アンケート」の結果 ※R5年度との比較

- ・「国語の授業が好きだ」に対する肯定的な回答 57% → 67%
→情報を思考ツールなどに整理する学習を通して、児童の主体的、対話的な様子が見られ、国語の学習に対する意欲が高まっている。
- ・「話のつながりを意識し、大事なことを考えて、読んだり聞いたりしている」に対する肯定的な回答 82% → 85% (強い肯定のみ 40% → 50%)
→情報収集の過程で、文章の中から内容の中心となる語や文を選び出す学習の成果と考えられる。